

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成31年4月24日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 中田哲	計5人	
視 察 先	篠山市		
調査事項 (調査目的)	篠山市 学校の再編について		
日 時	31年4月16 (火)		
視察先対応者	篠山市 市議会議長森本富夫 教育委員会部長稲山悟 教育委員会教育総務課長小林康弘 教育委員会教育総務課係長田中真紀子		
添付資料	・ 視察参考資料 篠山市教育委員会 ・		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	31年 1月16日(火) 午後1時30分から3時
視察先	篠山市
調査事項	学校の再編について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>概要：資料に基づいて説明を受け、質疑を行った。</p> <p>篠山市は平成22年城東地区、25年篠山地区、28年多紀地区で小学校を統合した。5校減って現在小学校は14校となっている。中学校の統合はない(現在5校)</p> <p>多紀地区の統合については22年頃に話があったが立ち切れた。その後25年にPTAより統合の意見が出て改めて検討が始まった。研究会、準備委員会、19回の審議会などがあった。議会は「民意から導かれた結果を尊重する」との立場をとった。事務局として心掛けたこととして、事務局が誘導するのではなく情報提供に徹した。結論を急がず結論は委員会に託した。結果は「統合を否定する」場合でもやむをえないとした。</p> <p>スクールバス、教師の配置については資料を添付。</p> <p>廃校の跡地利用については、コミュニティカフェや地域スポーツの拠点として利用している所もある。廃校の地域については人口を増やすために「定住促進重点地区」として位置づけ新築、改築、保育料、子育て支援金の助成を市が行っている。</p> <p>統合後のアンケートでは76%が統合して良かった、7%は良くなかったとなっている。</p> <p>所見：</p> <p>篠山市は平成14年に学校適正配置計画を発表したが、同意を得られず一旦白紙にし、それ以後は行政から提案はしないこととした。そして統廃合は地域の意思に任せようとした。期間の経過によって複式学級への心配などから地域の人から統合についての意見が出るようになった。研究会や準備会を重ね最初の統合が22年4月の城東地区の城東小学校の開校であるから8年は経過している。しかも他の2つの統合はそれに遅れて3年と6年の統合であり、平成28年が直近の統合ということになる。統合や廃校についてあくまでも地域の意見があがるまで待つという姿勢は参考にするべきことと考える。</p> <p>次にスクールバスであるが、篠山市は5台を保有し運営は事業者に委託している。学校の統合により遠距離通学者が増えることは明らかなので、スクールバスの検討は必要であり、そして地域への説明の際にはその事を明らかにして提案するべきと思う。篠山市の場合スクールバスは1便と決めている。三田のように中学校の場合は放課後のクラブ活動のこともあり一日一便では不足すると思う。また、スクールバスを活用して、バスを利用していない昼間の時間帯において、地域での病院・買い物等の活用かと質問したところ、経費やバスの仕様の関係で難しいのではないかとの回答であったが、後日の話しでは一部バスを地域で活用しているとの話を聞いた。</p> <p>篠山市に限らず周辺都市の実績と効果、課題について今後更に調査が必要であると考ええるが、説明の中及び篠山市議長の話しからもあったように、「とにかく、ゆっくりと進めること」が肝要であると考ええる。</p>	

兵庫県三田市議会視察研修次第

と き 平成31年4月16日(火)

13:30~

ところ 篠山市役所4F 議員協議会室

1. 開会

2. あいさつ

3. 出席者の紹介

4. 研修内容

学校再編について

5. 質疑応答

6. 閉会

(篠山市出席者)

・教育委員会事務局

・ "

・

教育総務課

"

部長 稲山 悟

課長 小林 康弘

係長 田中 真紀子